
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第21週
(5月19日～5月25日)

- * 2008年5月28日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「百日咳」も掲載しています。

平成20(2008)年5月29日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年21週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		18週	19週	20週	21週		21週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	81	47	64	60	1540	350	9405
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ					2		17
	細菌性赤痢		1	3		22	2	106
	腸管出血性大腸菌感染症	4	1	2	2	26	58	489
	腸チフス			1		5	3	22
	パラチフス	1				3		15
四類	E型肝炎	1				4		18
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1		2	1	14	2	69
	エキノкокクス症							5
	黄熱							
	オウム病						1	1
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサスル森林病							
	Q熱	1				1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症						1	1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					4	9	82
	デング熱			1		7	1	23
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱							6
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
ボツリヌス症								
マラリア					6	1	12	
野兔病							2	
ライム病							2	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		1	2	3	29	13	288	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		18週	19週	20週	21週	年累計	21週	年累計
五類 (全数 出)	アメーバ赤痢	5	2	1	5	67	10	312
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	2				11	1	78
	急性脳炎 ***					5		79
	クリプトスポリジウム症					2		2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			3	8	5	60
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2			1	13	2	54
	後天性免疫不全症候群	14	2	7	17	227	13	550
	ジアルジア症		1		1	11		31
	髄膜炎菌性髄膜炎			1		1		7
	先天性風しん症候群							
	梅毒	3	3	3	4	69	10	295
	破傷風					2	3	30
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1	1	1	7	1	28
	風しん	2		1	1	24	5	178
麻しん	45	35	49	33	930	236	8415	
2008/5/28集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 60件 肺結核39件、その他21件で、推定感染地は国内57件、タイ1件、国内/スリランカ1件、不明1件。年齢は10歳代6件、20歳代9件、30歳代6件、40歳代8件、50歳代7件、60歳代11件、70歳代3件、80歳代9件、90歳代1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 2件 ともに有症状者で、血清型・毒素型はO157(VT2)1件、O103(VT1)1件。年齢はともに20歳代であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 推定感染地は国内/中国で、飲食物による経口感染が疑われている。
レジオネラ症 3件 すべて肺炎型で、患者は50歳代、60歳代、90歳代が各1件。推定感染地は都内2件、栃木県1件で、原因として2件で温泉、1件で巡回入浴サービスとの関連が疑われている。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 すべて腸管アメーバ症で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触2件(同性間1件、両性間1件)、飲食物による経口感染1件、不明2件であった。
クロイツフェルト・ヤコブ病 3件 孤発性プリオン病3件(古典型CJD 2件、その他1件)で、患者はすべて70歳代であった。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 G群で、血液から菌が分離・同定されており、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。
後天性免疫不全症候群 17件 無症候キャリア14件、AIDS 3件で、推定感染地は国内16件、インドネシア1件、推定感染経路はすべて性的接触(同性間13件、異性間3件、両性間1件)であった。
ジアルジア症 1件 推定感染地は国内/アメリカで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。
梅毒 4件 早期顕症梅毒I期1件、先天梅毒1件、無症候梅毒2件で、推定感染地は国内3件、中国1件、推定感染経路は性的接触3件(同性間1件、異性間2件)、母子感染1件であった。先天梅毒の報告は都内では2008年最初である(都内で2007年0件、2006年2件)。
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 腹水から菌が検出されている。患者には胆管ステント留置および腹腔ドレナージが施されていた。耐性遺伝子型は不明。
風しん 1件 臨床診断例の10歳未満男性で、風しん含有ワクチン接種歴は1回であった。
麻しん 33件 麻しん(検査診断例)8件、麻しん(臨床診断例)19件、修飾麻しん(検査診断例)6件で、年齢は10歳未満8件(うち5歳未満7件)、10歳代8件、20歳代12件、30歳代3件、40歳代2件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は無し15件、1回5件、不明13件であった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年21週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		18週	19週	20週	21週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	6	2	1	4	0.03	149	150
	咽頭結膜熱	59	58	64	71	0.48		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	312	250	437	433	2.91		
	感染性胃腸炎	794	745	888	1,075	7.21		
	水痘	203	250	239	198	1.33		
	手足口病	16	16	16	24	0.16		
	伝染性紅斑	17	15	20	34	0.23		
	突発性発しん	74	81	103	108	0.72		
	百日咳	7	6	11	9	0.06		
	ヘルパンギーナ	7	8	15	33	0.22		
	流行性耳下腺炎	62	49	57	63	0.42		
	不明発しん症 (注1)	9	7	15	9	0.06		
	MCLS(川崎病) (注1)	0	3	0	5	0.03		
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	93	19	48	39	0.14	287	290
眼科	急性出血性結膜炎	3	1	2	4	0.11	37	39
	流行性角結膜炎	20	20	21	29	0.78		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	1	2	2	0.08	24	24
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	6	2	6	2	0.08		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2	0	3	0	0.00		
2008/5/28集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻疹、成人麻疹は2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数は微減したが、2007年の同時期と同じく、過去5年平均よりも高いレベルで推移している。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微増した。2007年および過去5年平均の同時期と比較して多くなっている。
- ・百日咳の定点当たり報告数はやや減少した。患者実数は9人で、うち3人が20歳以上であった。成人における流行に引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

八王子保健所管内定点医療機関

- ・百日咳:1ヶ月の乳児(男)です。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年21週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月				9	7			2	1	
～11か月	2	6	2	54	10			50	1	
1歳		18	16	126	39	10	3	47		8
2歳		7	24	103	32	7	3	7	1	10
3歳		9	49	109	34	2	4			5
4歳		13	74	125	30	1	7			2
5歳		5	55	108	18	1	4	1		2
6歳		3	57	83	11	2	2			1
7歳		1	37	60	5	1	6			1
8歳		2	36	47	4		1		2	
9歳		3	17	57	2		1	1		
10～14歳			33	80	4		1		1	1
15～19歳			3	15	1		2			
20～29歳	2	4	30	99	1				3	3
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	4	71	433	1075	198	24	34	108	9	33
先週比	3	7	-4	187	-41	8	14	5	-2	18

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月				1	2	2
～11か月		1	1	1		
1歳	4	5	3			
2歳	2	1		3		1
3歳	5			2		
4歳	6	1		1		
5歳	13		1	3		1
6歳	5			1		1
7歳	13	1		2		
8歳	4			2		1
9歳	2					1
10～14歳	5			1		
15～19歳	1			1		1
20～29歳	3			8		5
30～39歳				8		5
40～49歳				4		3
50～59歳						3
60～69歳				1		1
70～79歳						2
80歳以上						
合計	63	9	5	39	4	29
先週比	6	-6	5	-9	2	8

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2008年21週

	風しん	麻しん
0歳		3
1歳		4
2歳		
3歳		
4歳		
5歳	1	
6歳		1
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		1
15～19歳		7
20～29歳		12
30～39歳		3
40～49歳		2
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	33

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年21週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	1	1								
中央区			5	4				2		
みなと	2	9	20	80	15		1	3		
新宿区		1	4	13	8	1		3		
文京		1	6	5	2			4		
台東		3	7	31	7	2	1			
墨田区		2	8	22	4	1		2		7
江東区		2	12	61	4	4	4	3		2
品川区		1	31	52		1	2	4	1	1
目黒区			3	6	2			5		
大田区		16	27	70	13	1	3	8	1	4
世田谷		2	17	68	10			3		2
渋谷区			3	21	5			2		
中野区			13	35	12	4	1	5		
杉並		1	8	37	16	1		2		
池袋			1	5	4			1		1
北区		1	5	18	5			5		
荒川区			20	25	5		1	3		3
板橋区			5	9	3			1		
練馬区		3	8	27	6			7	1	1
足立		2	20	59	5	1		2		1
葛飾区			11	37	11	2		5		1
江戸川	1	5	36	45	6		1	2		
八王子市		4	36	78	17	1	7	10	4	
西多摩		5	6	27	2			2		
南多摩			16	27	5	2	7	4		6
町田		2	38	71	12		5	4	1	
多摩立川		1	5	22	3	1		1	1	
多摩府中		2	23	50	11			11		1
多摩小平		6	39	70	5	2	1	4		3
島しょ		1								

東京都合計	4	71	433	1,075	198	24	34	108	9	33
-------	---	----	-----	-------	-----	----	----	-----	---	----

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2008年21週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			1			
中央区	1					1
みなと						
新宿区	3					1
文京						2
台東	1					
墨田区						
江東区			1	1		3
品川区		2		4		1
目黒区						
大田区	1		2	1		
世田谷	9			1		1
渋谷区	2			1		
中野区	4					
杉並	3			1		2
池袋	2			1		
北区				1		
荒川区	11			2		
板橋区	1					1
練馬区	5			3		2
足立	8			7		2
葛飾区		1				
江戸川				3		3
八王子市	7		1	1		4
西多摩				3		
南多摩	1			3	4	4
町田	1	1		6		
多摩立川	2					
多摩府中		2				1
多摩小平	1	3				1
島しょ						

東京都合計	63	9	5	39	4	29
-------	----	---	---	----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		1
文京		1
台東		1
墨田区		2
江東区		
品川区		2
目黒区		1
大田区		
世田谷		3
渋谷区		1
中野区		1
杉並		1
池袋		
北区		1
荒川区		
板橋区		1
練馬区		2
足立		1
葛飾区		1
江戸川		2
八王子市		2
西多摩		2
南多摩		
町田		7
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平	1	
島しょ		

東京都合計	1	33
-------	---	----

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】2008年21週

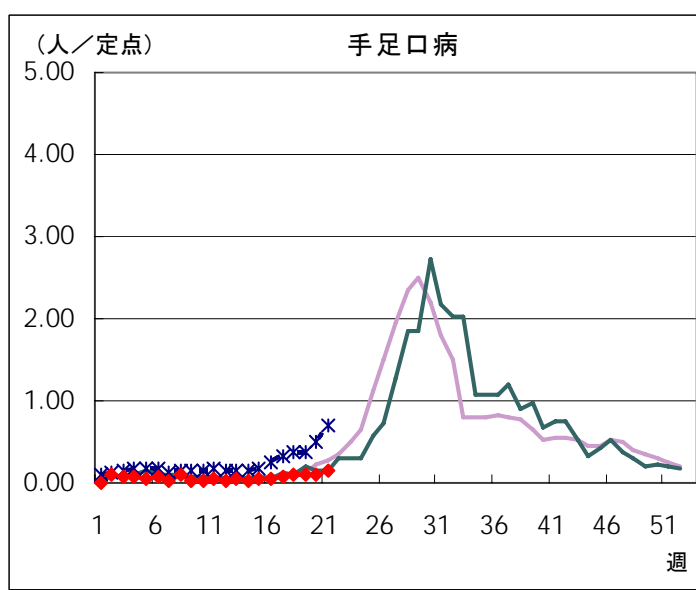
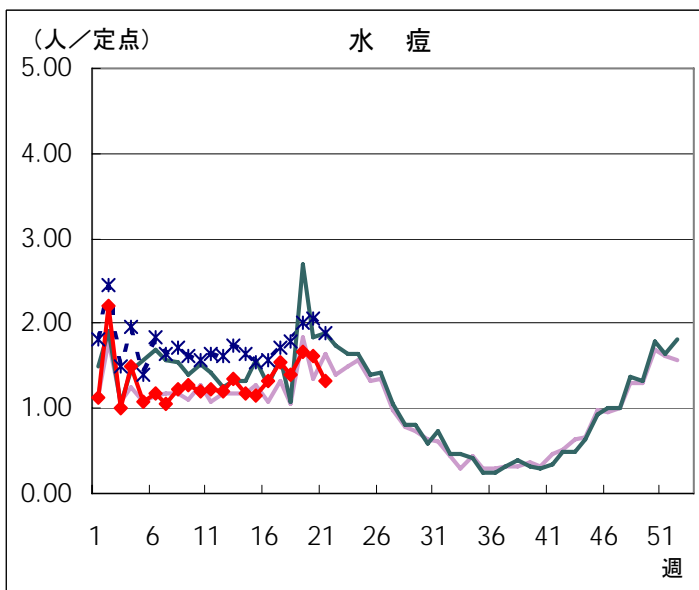
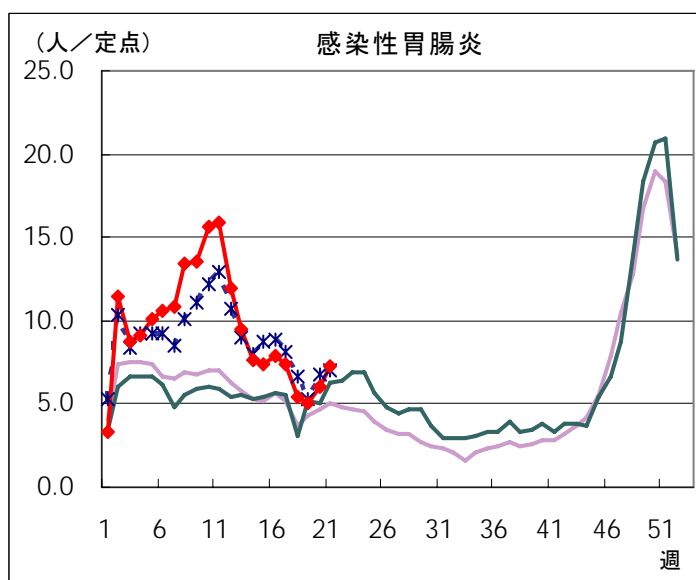
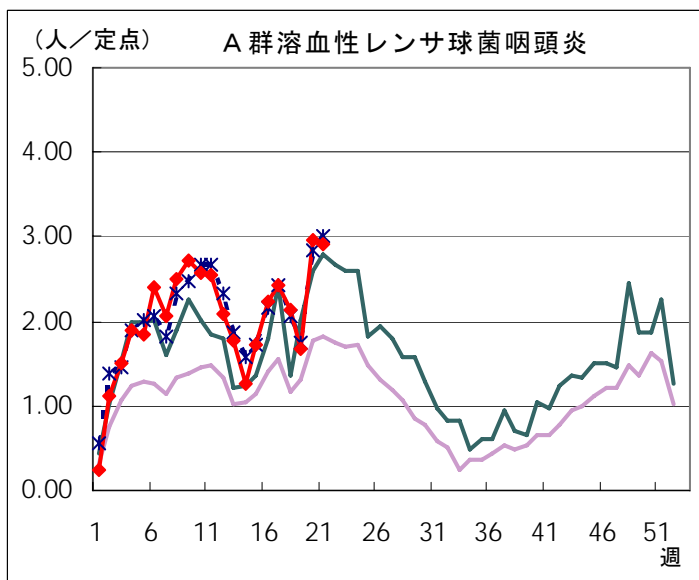
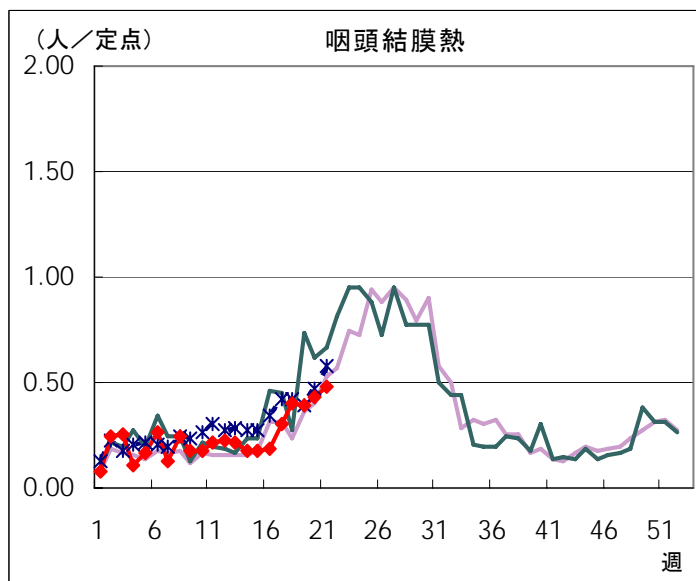
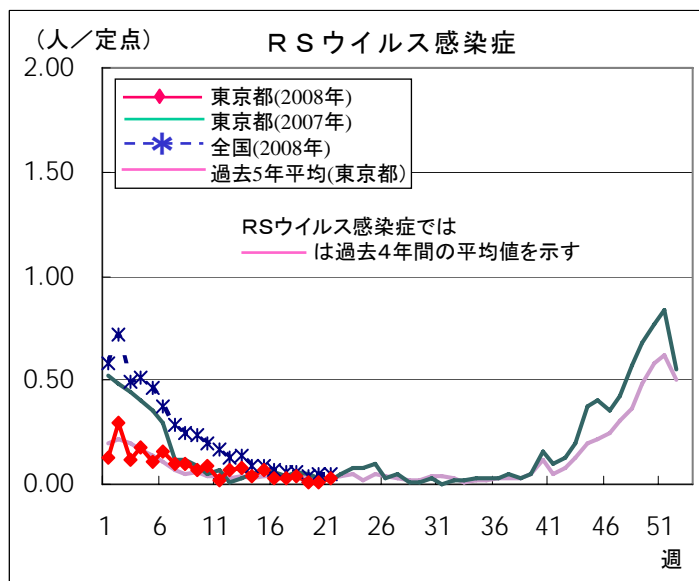
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	0.25	0.25								
中央区			1.67	1.33				0.67		
みなと	0.33	1.50	3.33	13.33	2.50		0.17	0.50		
新宿区		0.17	0.67	2.17	1.33	0.17		0.50		
文京		0.33	2.00	1.67	0.67			1.33		
台東		1.00	2.33	10.33	2.33	0.67	0.33			
墨田区		0.67	2.67	7.33	1.33	0.33		0.67		2.33
江東区		0.50	3.00	15.25	1.00	1.00	1.00	0.75		0.50
品川区		0.17	5.17	8.67		0.17	0.33	0.67	0.17	0.17
目黒区			1.00	2.00	0.67			1.67		
大田区		1.78	3.00	7.78	1.44	0.11	0.33	0.89	0.11	0.44
世田谷		0.25	2.13	8.50	1.25			0.38		0.25
渋谷区			0.75	5.25	1.25			0.50		
中野区			2.17	5.83	2.00	0.67	0.17	0.83		
杉並		0.17	1.33	6.17	2.67	0.17		0.33		
池袋			0.25	1.25	1.00			0.25		0.25
北区		0.25	1.25	4.50	1.25			1.25		
荒川区			10.00	12.50	2.50		0.50	1.50		1.50
板橋区			0.83	1.50	0.50			0.17		
練馬区		0.60	1.60	5.40	1.20			1.40	0.20	0.20
足立		0.40	4.00	11.80	1.00	0.20		0.40		0.20
葛飾区			2.75	9.25	2.75	0.50		1.25		0.25
江戸川	0.20	1.00	7.20	9.00	1.20		0.20	0.40		
八王子市		1.00	9.00	19.50	4.25	0.25	1.75	2.50	1.00	
西多摩										
南多摩			4.00	6.75	1.25	0.50	1.75	1.00		1.50
町田		0.50	9.50	17.75	3.00		1.25	1.00	0.25	
多摩立川		0.17	0.83	3.67	0.50	0.17		0.17	0.17	
多摩府中		0.20	2.30	5.00	1.10			1.10		0.10
多摩小平		1.00	6.50	11.67	0.83	0.33	0.17	0.67		0.50
島しょ		1.00								
東京都	0.03	0.48	2.91	7.21	1.33	0.16	0.23	0.72	0.06	0.22

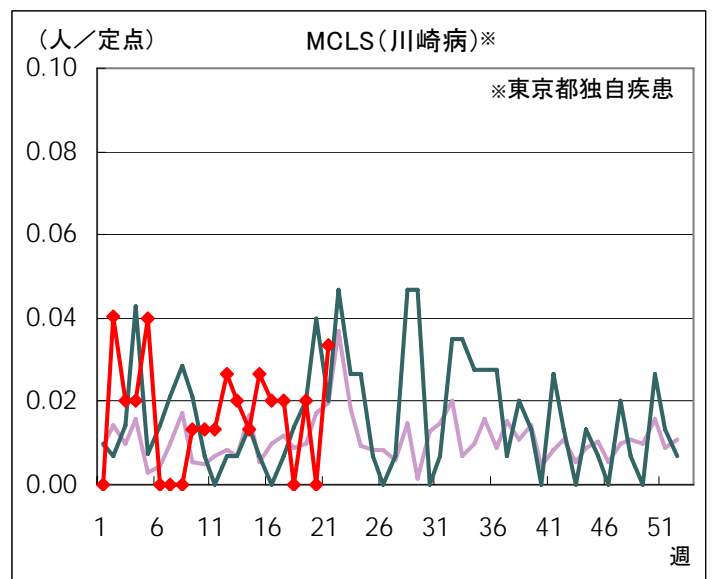
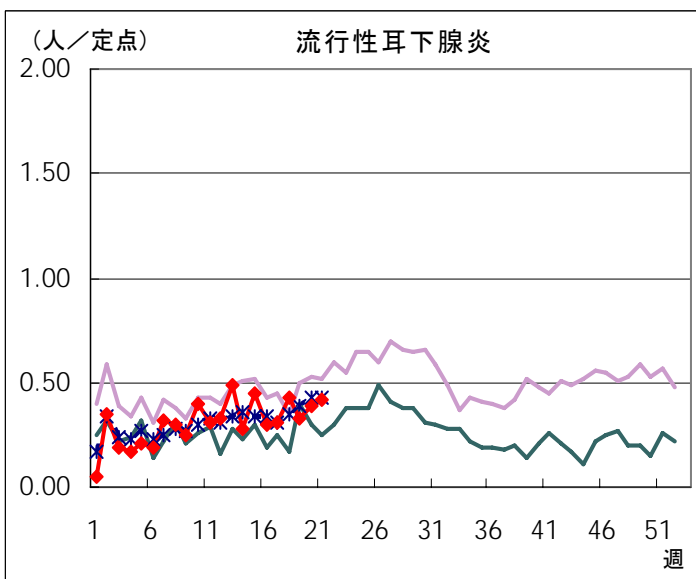
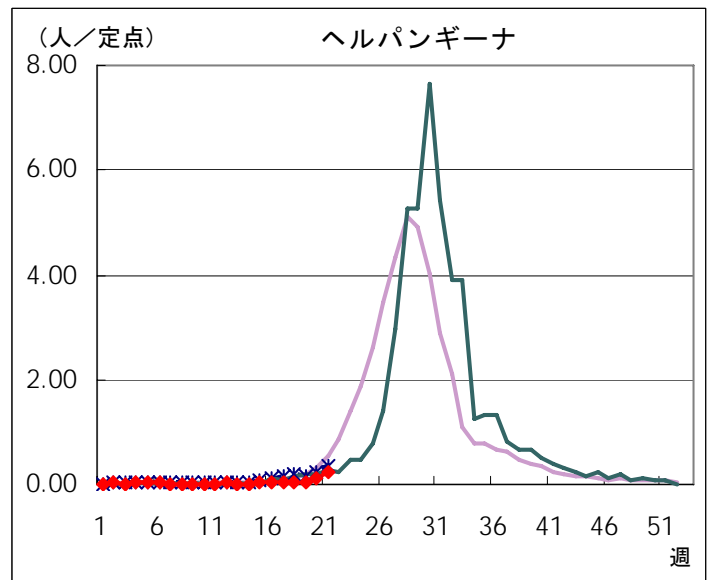
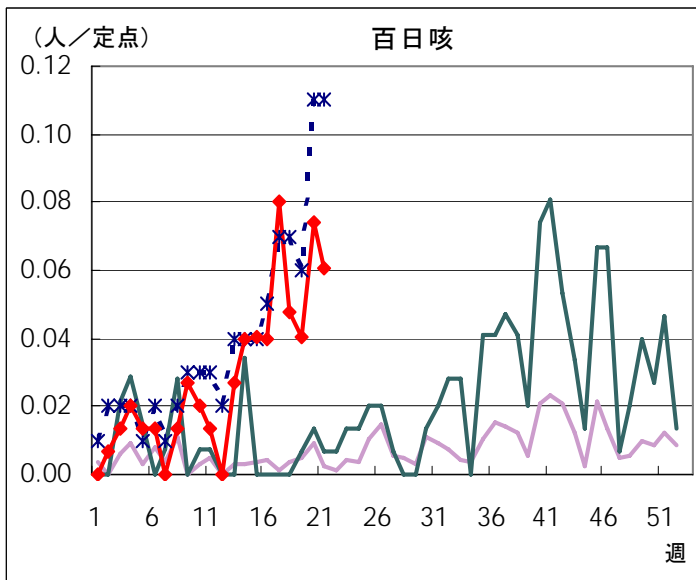
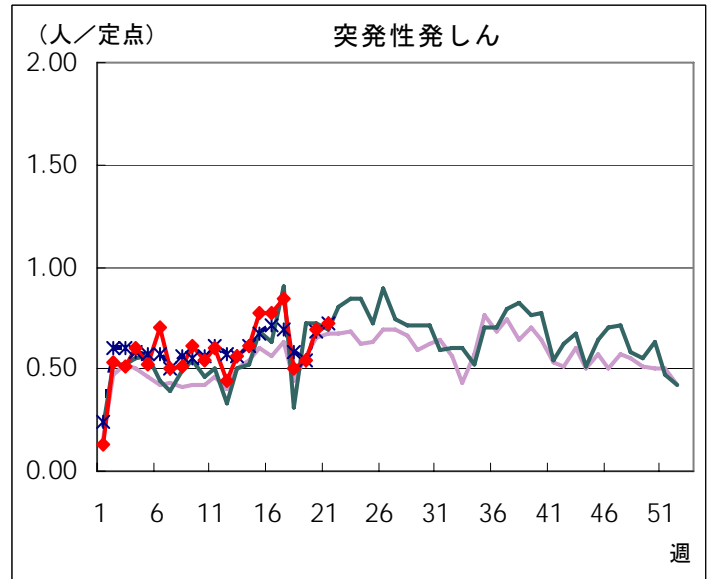
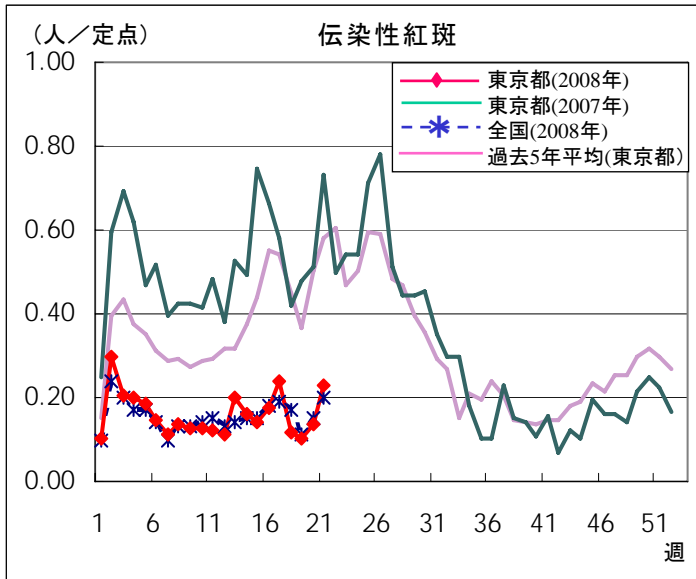
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			0.25			
中央区	0.33					1.00
みなと						
新宿区	0.50					0.50
文京						2.00
台東	0.33					
墨田区						
江東区			0.25	0.11		3.00
品川区		0.33		0.40		1.00
目黒区						
大田区	0.11		0.22	0.06		
世田谷	1.13			0.06		0.50
渋谷区	0.50			0.17		
中野区	0.67					
杉並	0.50			0.08		2.00
池袋	0.50			0.17		
北区				0.14		
荒川区	5.50			0.50		
板橋区	0.17					0.50
練馬区	1.00			0.25		1.00
足立	1.60			0.58		1.00
葛飾区		0.25				
江戸川				0.25		1.50
八王子市	1.75		0.25	0.10		4.00
西多摩				0.33		
南多摩	0.25			0.33	4.00	4.00
町田	0.25	0.25		0.67		
多摩立川	0.33					
多摩府中		0.20				0.50
多摩小平	0.17	0.50				0.50
島しょ						

東京都	0.42	0.06	0.03	0.14	0.11	0.78
-----	------	------	------	------	------	------

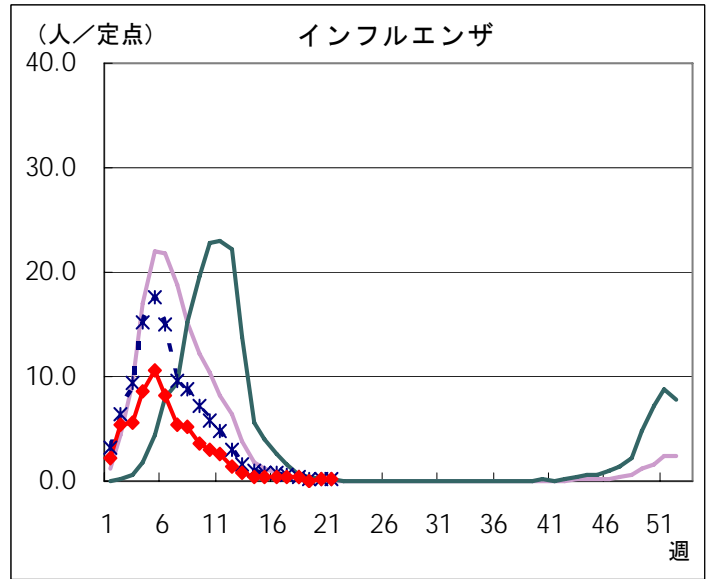
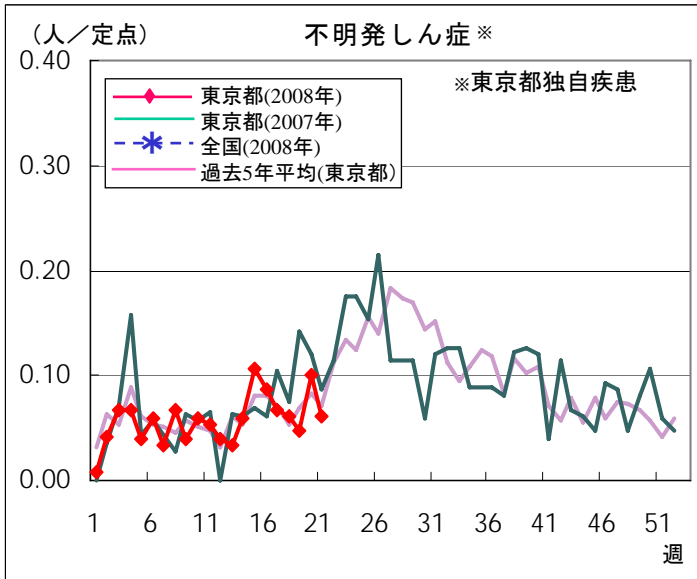
定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年21週現在

◆ 小児科定点

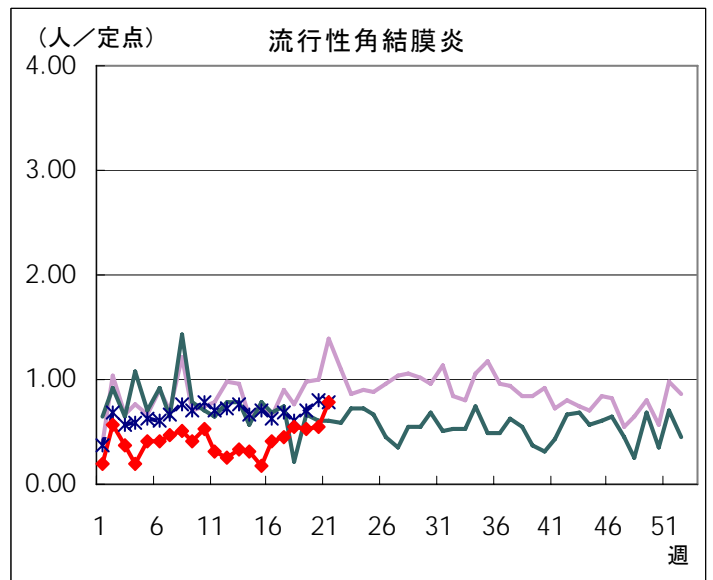
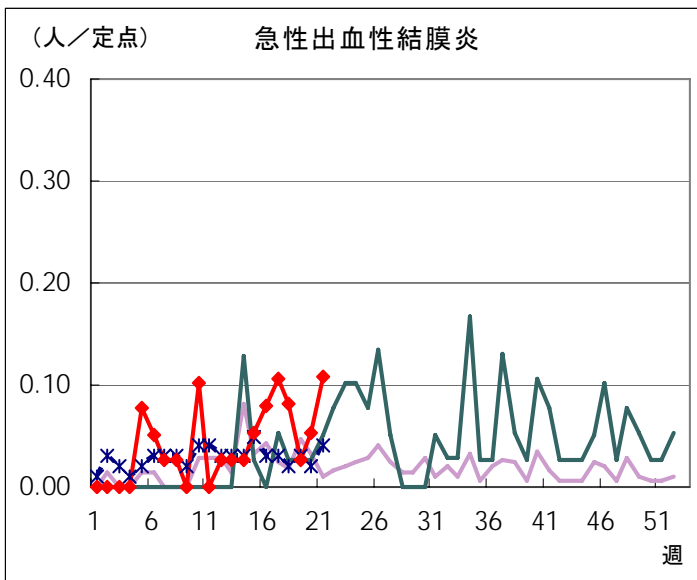




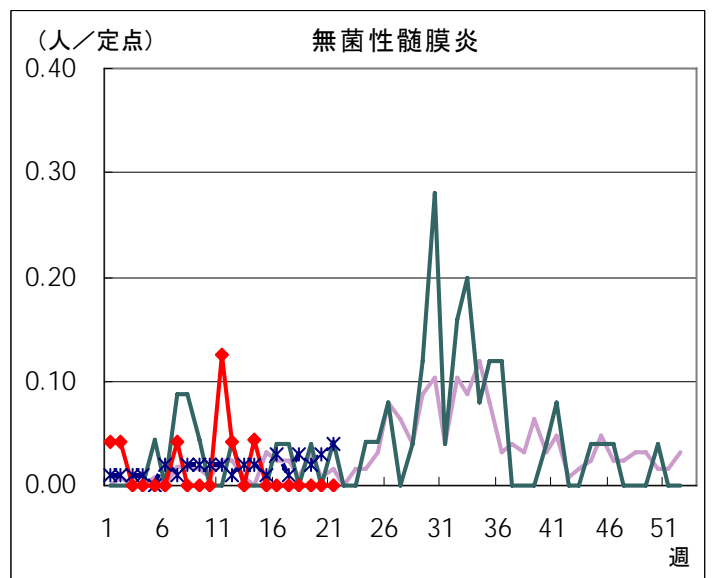
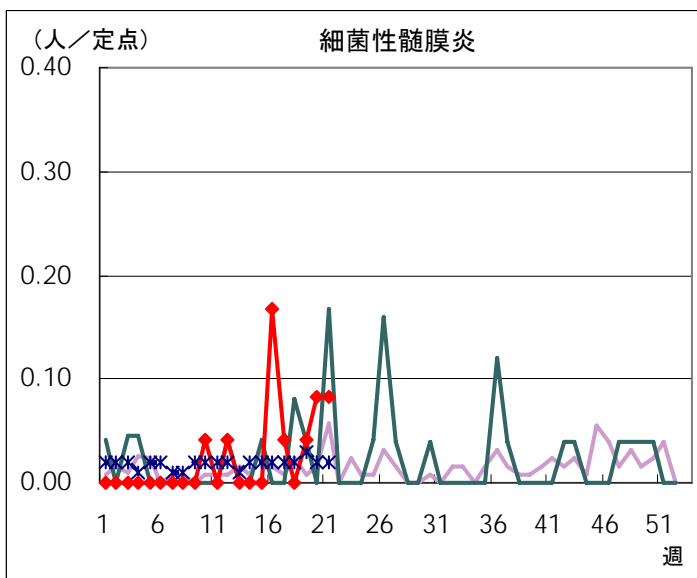
◆ インフルエンザ定点

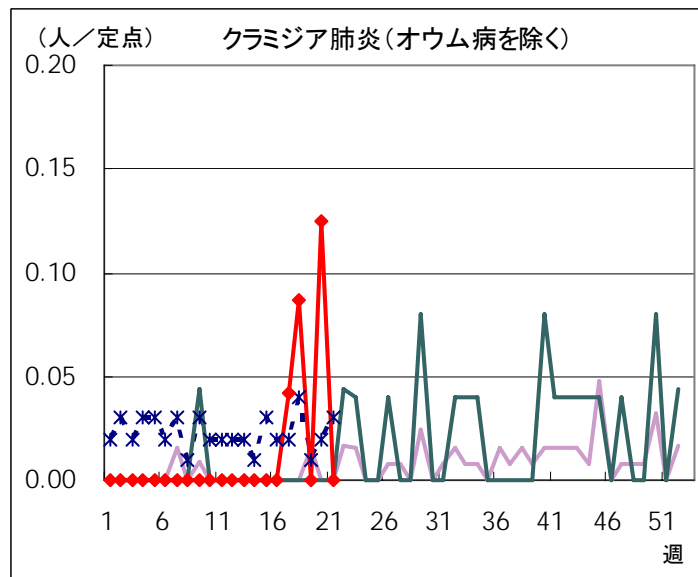
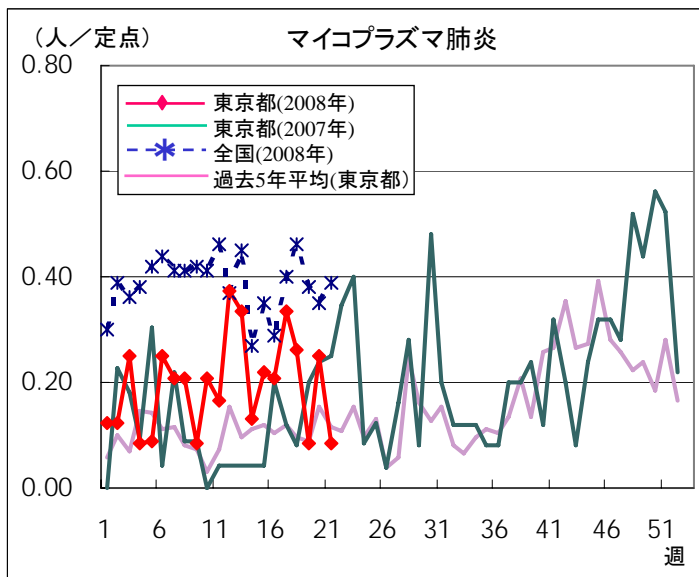


◆ 眼科定点

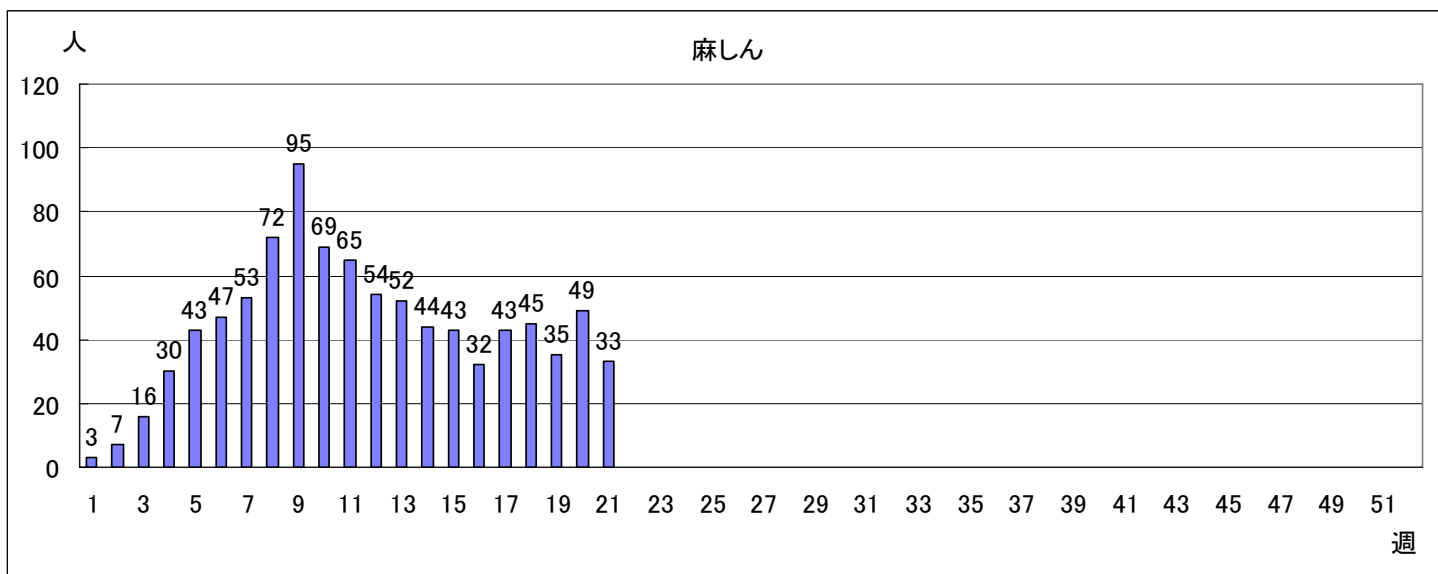


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年21週現在



病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/19	細菌性髄膜炎	0	髄液	B群レンサ球菌	遺伝子
4/25	肝機能障害	3M	血清	サイトメガロウイルス	
5/7	百日咳	0	鼻汁(スワブ)	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 コアグララーゼIV型	分離同定
5/7	百日咳	7	鼻汁(スワブ)	百日咳菌 肺炎球菌	
5/8	肺炎	6	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
5/9	肺炎	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型	
5/9	肺炎	1	糞便	ライノウイルス	
5/9	急性扁桃腺炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
5/9	肺炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/10	肝機能障害	3M	咽頭拭い液	ライノウイルス、 サイトメガロウイルス	
5/10	感染性胃腸炎	1	糞便	アデノウイルス	
5/11	マイコプラズマ肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、 ライノウイルス	
5/12	けいれん群発	2	尿	単純ヘルペスウイルス	
5/12	けいれん群発	2	糞便	ヒトヘルペスウイルス7型	
5/12	胃腸炎	6M	糞便	アデノウイルス	
			咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/12	感染性胃腸炎	記載無し	糞便	ノロウイルス	
5/12	胃腸炎	10M	糞便	アデノウイルス、 ノロウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
5/13	肺炎、ロタウイルス腸炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス	遺伝子
5/15	突発性発しん	10M	咽頭拭い液	アデノウイルス、 ヒトヘルペスウイルス6型	
5/15	胃腸炎	3	糞便	サポウイルス	
5/15	胃腸炎	1	糞便	アデノウイルス、 ノロウイルス	
5/16	不明熱	11M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
5/16	流行性耳下腺炎	5	咽頭拭い液	EBウイルス	
5/16	不明発しん症	3	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
6/12	滲出性扁桃腺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
記載無し	咽頭炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス、 エンテロウイルス	

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
記載無し	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	78	血液(菌株)	腸球菌(<i>E.faecium</i>) <i>van A</i> 遺伝子保有	遺伝子

* 20週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		13	14	15	16	17	18	19	20
ウイルス	アデノウイルス	5	13	4	10	11		12	12
	ライノウイルス	2	2	8	6	4		11	5
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス							1	1
	単純ヘルペスウイルス	1		1					1
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	3	2	7	8			1	3
	EBウイルス		2	1	3			1	1
	サイトメガロウイルス		1	1				3	2
	ムンプスウイルス	1	1		3	1		5	
	麻疹ウイルス	1	2			2		2	
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス	4							
	ノロウイルス		1	1	1	1			3
	ロタウイルス	7		6	2				
インフルエンザウイルスAH1			1						
インフルエンザウイルスAH3		3	4	1		4	1		
インフルエンザウイルスB	1								
デングウイルス									
その他のウイルス	10	4	6	2	1		4	2	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								1
	溶血性レンサ球菌						9		1
	その他の細菌					1			2
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年13週～20週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	37	41	80	63	39			9				19	10	4	5		118	
ウイルス	アデノウイルス		8	21	12	2		4				1	2	1	1		15	
	ライノウイルス		7	18	2							4		1			6	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		1									1						
	単純ヘルペスウイルス																	3
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		1	2								4						17
	EBウイルス												2					6
	サイトメガロウイルス		1	1														5
	ムンプスウイルス					2								8				1
	麻疹しんウイルス		1										1			5		
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19																	
	RSウイルス			4														
	ノロウイルス				7													
	ロタウイルス				15													
インフルエンザウイルスAH1	1																	
インフルエンザウイルスAH3	13																	
インフルエンザウイルスB	1																	
デングウイルス																		
その他のウイルス		4	23	2														
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																1	
	溶血性レンサ球菌		8														2	
その他の細菌			1														2	
その他の病原体																		

「百日咳」

百日咳は5類感染症の小児科定点把握疾患で、グラム陰性、短桿菌の百日咳菌によるヒトのみが宿主の呼吸器感染症である。我国では1981年に世界に先駆け副作用の少ない無細胞百日咳ワクチンを開発し、1997年以後流行はなかった。しかし2002年頃から15歳以上の患者が増加し、2007年5月香川大学で医学生を中心に200人以上の集団感染が発生し、さらに高知大学、青森の消防署、岡山の中高校、宇和島市でも集団発生した。これらの流行株の遺伝子分析(MLST)により、潜在する異なる百日咳菌が各地域で流行したと考えられた。飛沫による感染力は麻疹と同様に極めて強く、狭い空間を長時間共有する施設では容易に感染が拡大する。アメリカでも2005年は25616例と2001年の3倍で、2004年の成人患者は27%であった。わが国でも2007年は2926例と前年度1504例の倍で、15歳以上が30%を占めた。増加要因は①ワクチン獲得免疫の低下、②患者減少で自然感染によるブースター効果の減少、③医師の認識の高まりが挙げられる。2001～2005年の英国での調査で2週間以上咳のある5～15歳児172人中64人が百日咳で、55人(85.9%)がワクチン接種者であった。ワクチンの免疫効果は5～10年であり感染防御水準を保つには複数回のワクチン接種が必須である。米国では7歳未満児に5回、11～12歳または19～64歳に1回青年・成人用のワクチン(Tdap)が推奨されている。日本では3～12ヵ月に3回、6ヵ月以上の間隔で1回追加接種の計4回で、成人用のワクチン導入は未定である。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子)